

## < 2次元正規分布に従うデータと回帰直線 1 >

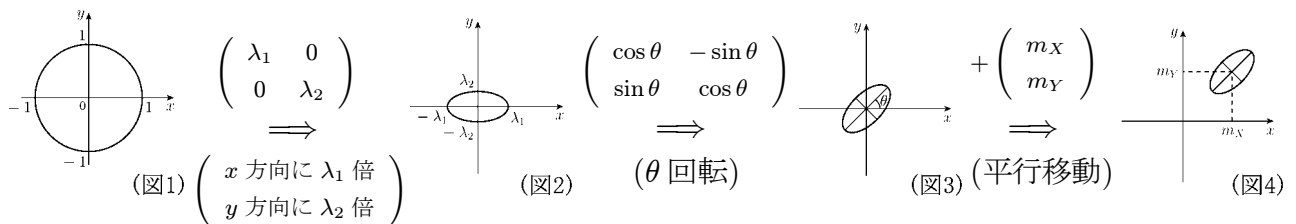
$(U_1, V_1), (U_2, V_2), \dots, (U_n, V_n)$  は独立な 2次元標準正規分布に従う確率変数列とし、2次元データ

$$(*) \quad \begin{pmatrix} X_i \\ Y_i \end{pmatrix} = \begin{pmatrix} a & c \\ b & d \end{pmatrix} \begin{pmatrix} U_i \\ V_i \end{pmatrix} + \begin{pmatrix} m_X \\ m_Y \end{pmatrix} \quad (i = 1, 2, \dots, n)$$

を考える。この一次変換が、定数  $\lambda_1 > \lambda_2 > 0$ ,  $0 < \theta < \frac{\pi}{2}$  に対して

$$\begin{pmatrix} a & c \\ b & d \end{pmatrix} = \begin{pmatrix} \cos \theta & -\sin \theta \\ \sin \theta & \cos \theta \end{pmatrix} \begin{pmatrix} \lambda_1 & 0 \\ 0 & \lambda_2 \end{pmatrix} = \begin{pmatrix} \lambda_1 \cos \theta & -\lambda_2 \sin \theta \\ \lambda_1 \sin \theta & \lambda_2 \cos \theta \end{pmatrix}$$

と表されている場合、この変換 (\*) は図 1 → 図 2 → 図 3 → 図 4 のようになる。



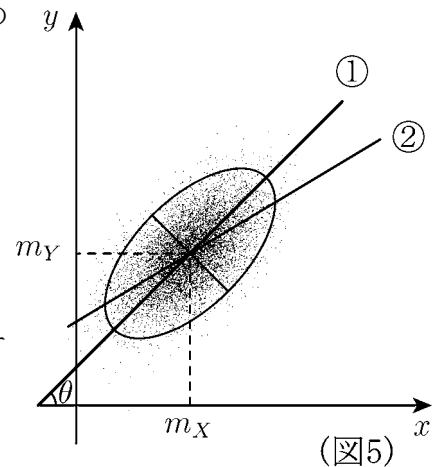
このとき 2次元データ  $(X_i, Y_i)$  ( $i = 1, 2, \dots, n$ ) の散布図は図 5 のような  $(m_X, m_Y)$  を中心として、中心軸が直線

$$y = (\tan \theta)(x - m_X) + m_Y \quad \dots \quad \textcircled{1}$$

である楕円の形になる。

図 5 の直線②は前ページで導いた 2次元正規分布の場合の「 $X = x$  のときの  $Y$  の条件付平均値」が表す直線

$$y = \rho \frac{\sigma_2}{\sigma_1} (x - m_X) + m_Y \quad \dots \quad \textcircled{2}$$



である。ただし  $\sigma_1 = \sqrt{a^2 + c^2}$ ,  $\sigma_2 = \sqrt{b^2 + d^2}$ ,  $\rho = \frac{ab + cd}{\sigma_1 \sigma_2}$  である。このとき、次が成り立つ。

①  $n$  が十分大きいとき、直線①は 2次元データ  $(X_i, Y_i)$  ( $i = 1, 2, \dots, n$ ) の直交回帰直線とほぼ一致する。

②  $n$  が十分大きいとき、直線②は 2次元データ  $(X_i, Y_i)$  ( $i = 1, 2, \dots, n$ ) の回帰直線とほぼ一致する。